平成２７年２月１３日発行

回覧

行政自治会だより

第１２号

■発行所／古河市行政自治会　事務局 TEL 0280-92-3113　■発行人／会長　五月女　光男

行政自治会視察研修を実施しました

宮城県仙台市宮城野区福住町町内会長　菅原康雄氏による講演風景

平成２６年度行政自治会視察研修は、１１月７日（金）～８日（土）に、１２３名の参加を得て実施されました。今回の研修は「震災から学ぶ」をテーマに、平成２３年３月１１日に起きた「東日本大震災」の現場の復興状況の視察と仙台市宮城野区福住町町内会長 菅原康雄氏から福住町の防災活動状況と震災の体験談を主とした講演でした。内容は、「隗（かい）より始めよ・～侮るな地域力～・～出来るだけ行政に頼らない地域力～」と題し講演して頂き防災活動の貴重な話を聞くことが出来ました。講演のあとに、震災の被害を受けた「仙台市若林区荒浜地区」と近隣の「宮城野区蒲生地区」の視察を実施し、当時の様子を現場で説明を受け改めて津波の恐ろしさ等を確認することが出来ました。

（広報委員　梅津信男）

※詳細記事　２ページ

目　次

P1 行政自治会視察研修を実施しました
P2 新年のごあいさつ
　行政自治会視察研修
P3 地区紹介（第４地区）
P4 市内歴史散歩（第１０回）

PRINTED WITH SOY INK
R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

新年のごあいさつ

古河市行政自治会
会長　五月女 光男

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。旧年中は、自治活動の周知を図る為の行政自治会だより発行、地域における相互の交流及び健康増進を図る為の行政自治会親善ソフトボール大会や親善バレーボール大会、市と連携し自助、共助を育む為の防災訓練の実施、また１月２２日には茨城県自治会連合会情報交換会が古河市地域交流センター（はなももプラザ）を会場とし開催され、県内から１５０名を超える参加者が集まり、意見交換を行いました。

昨年に引き続き、組織強化を図り地域相互の連携を深めながら、合併１０周年を迎える古河市と協働し、より一層の地域力の向上を図れる様、地域と行政を結ぶ橋渡し役として様々な活動を実践してまいりたいと思います。

最後になりますが、本年もご支援ご協力を賜ります様、また皆様方にとってご健康で輝ける年になることをご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

行政自治会視察研修

【奥に見える観音像が津波の高さとのことでした。】

【現在の荒浜地区（奥に見えるのが荒浜小学校）】

１１月７日講演先である高砂市民センターで仙台市宮城野区福住町町内会長　菅原康雄氏の講演を拝聴しました。菅原会長は、「総務省消防庁　防災アドバイザー・災害伝承語り部」として活動されており、活動内容は「福住町方式」として全国から注目されております。講演は、福住町内会震災記「隗より始めよ～侮るな地域力～出来るだけ行政に頼らない地域力～」と題して実施して頂きました。福住町は１５年度から「自分たちの町は自分たちで守る」を合言葉に、名簿作りや地域の組織づくりをおこない独自の防災マニュアルをもとに「自主防災組織」を立ち上げました。

また、普段から町内会の夏祭りや灯篭流し等の行事において住民との交流を深めるほか、町内会会員の親睦・融和を図る事業として、年に一度の防災訓練等を実施しているとのことでした。

「名簿作り」においては、女性防災リーダーの活躍があったとのことです。防災活動事業として、家具の転倒防止の推進、ブロック塀・自販機の転倒防止の推進、トイレの問題と備蓄水の使用の推進、備蓄品の点検と避難物資の備蓄推進、救急救命医療（BLS)の訓練、伴侶動物のしつけ・訓練の指導、災害時支援協力姉妹町内会の提携推進等がありました。

また、菅原会長は、「訓練出来なかったことは、実際の場で出来るはずがない」ことを強調されておられました。この福住町は、住民の安否確認を短時間で実施し、避難所への避難誘導、震災が起きた夕方には避難所となった「福住集会所」で炊き出しを行い住民に提供しております。これは「常の訓練が実を結んだ」成果とのことでした。特に強調されておられたのが、「災害予防計画の重要性」で、行政が一律に示したマニュアルではなく、その地域の特性を網羅したマニュアルを作成し、熟知しておくことが最良であると言っておられました。講演後は、菅原会長の案内で津波で甚大な被害のあった荒浜地区と蒲生地区の現地視察を実施しました。まず目に飛び込んできたのが、震災当時TVで見た児童・住民が屋上へ避難していた荒浜小学校の風景でした。現在の被災現場は雑草が生い茂る荒涼たる風景（右上の写真）でした。現場には観音像（左上の写真）が建立されており、津波は観音像を超える高さ（観音像の高さ７ｍ）位あったそうです。古河市においては、津波の被害はないが建物の倒壊等による被害が想定されます。被害を無くすことは出来ませんが、地域住民と協力し「減災」に心掛けなければと本研修を通じて強く思った次第です。（広報委員　梅津信男）

地区紹介（第１０回）　～第４地区～

～古河の玄関口の歴史紹介～

この度第４地区について紹介させていただきます。

古河市行政自治会第４地区は自治会加入世帯約2,900戸、人口約7,300人を有しております。昭和３０年までは猿島郡新郷村でした。

新郷村は古河市に合併、第四小学校区である中田・大山・中田新田・茶屋新田の区域で現在２２の自治会をもって形成し第４地区として市内でも有数の人口を有しております。

この地区の中でも特に中田町においては、今から約４００年前に江戸幕府の計画により、利根川左岸に日光街道の宿場を作るべく、上中田を中心に下中田・上伊坂の住民達により今の利根川橋の下にあたる地点に中田宿を作りました。

また対岸には栗橋宿があり中田宿と二つで一つの役割を果たし、一ヶ月のうち半分づつ務めたそうです。

中田宿は、雨で利根川が増水すると川止めと言って、水が引くまで舟で渡ることを禁じたので、旅人や通行人達は、大変不便で２日も３日も水の引くのを待つほかなく、その分、宿の旅籠は繁盛したそうです。中田宿を北へ日光街道（現在の古河第四小学校・古河第二中学校通り）を歩くと、街道の両側に松の木が高々とそびえ、道中日記などにも、これほど広い立派な街道は外にないと書いてあります。

また中田はお寺が多いところです。満福寺・光了寺・円光寺・顕正寺・本願寺・大善院・八幡宮等があり、やはり古い歴史があって、古くから住人が多く住んでいたと言えるのでないかと思います。

昭和３０年古河市に合併するまでは中田公民館は新郷村役場でした。またその東側に第四小学校、中田新田には県立第三高等学校があります。第四小学校付近は上中田の中心地であり、元屋敷跡も残っており、古街道（ふるかいどう）も通っていたところです。江戸時代初期に、日光街道を作るにあたり中田古町の旧地のあたりは、地高が高いところは切通しをつくり、中田から茶屋まで坂のない平らな街道にしたそうです。茶屋新田と中田新田の間には、カワス沼という大きな沼があり、日光街道はその沼を避けて今のような形になったのでした。

さらにJR宇都宮線も日光街道と同じように急カーブとなっております。そのカーブの所は、時の将軍が日光御社参の時には、古河市史にも将軍御歩行のままと書いてあるように、ここの所だけは駕籠を下りられ、歩いて４～５００メートル位をカワス沼の景色や利根川方面に帆を上げた舟を眺められたと言われます。日光街道のカーブも、JR線のカーブも今では誰も不思議に思わなく、これが当たり前だからだと思います。

中田宿のことについても、先祖の旧地を知らない、古町のことも知らない、なんとかがんばって地元の人たちにわかって貰うため、伝えようとしています。たとえば利根川橋のことについても、平成２５年に解体した旧橋は、日本の国が総力を上げて、国で始めての鉄とコンクリート製の永久橋でした。

日本中どこに行っても木橋が当たり前の時代に西洋の技術を取り入れて造ったもので、この橋が出来上がった時は、境・岩井・諸川・下妻・結城・館林・藤岡方面から弁当を持って見物に来たと言います。

これが古河の玄関口であったと言われた第４地区地域の概要であります。

（古河郷土史研究会　松本守雄）

第４地区　区域

市内歴史散歩（第１０回）～ 関東の奇祭・高野ロウソク地蔵尊祭 ～

古河市高野地区に、主祭神に平将門尊を祀る北向八幡神社の西方に、通称ロウソク地蔵尊といわれる石造地蔵尊立像がある。平時の地蔵尊のお姿は、体が真っ黒ですが、誰も日本に一つしかない珍しいお地蔵様などとは、気づかないで前を素通りして行くような何の変哲もない普通のお地蔵様です。

ところが、祭禮の夜には、想像を絶する様なお姿に変身するのです。全国各地の風変りな地蔵信仰は色々ありますが、高野のロウソク地蔵尊にはとうてい敵わないでしょう。自分の体の悪い所と同じ場所に、世話役に頼みロウソクを上げて拝むと、病が治るといわれる霊験あらたかな地蔵尊で、風の便りに聞いたといっては、関東一円より老若男女が、わざわざお参りに来るのです。全身に直接大量のロウソクを上げるため、地蔵尊は火達磨のように変身します。頭のてっぺんから足の爪先に至るまで、どの部分にでもロウソクを上げるので、ロウソク地蔵尊といわれる所以です。例えば他のロウソク地蔵といわれるものは、地蔵尊の燭台にロウソクを上げるもので、高野のロウソク地蔵尊とは、全く異なるものです。昨今の祭禮では、ロウソクの数は、一晩で二千本とも三千本ともいわれる程上がります。建立月日は、享保４年天９月１５日（１７１９）ですが、建立時の地蔵尊はロウソクの火で焼け崩れてしまい、昭和１１年１１月１５日（１９３６）に、台座は其のままで、二世の地蔵尊像を再建しました。

祭禮は毎年新暦の８月２３日から２４日の２日間で、盆踊りと共に盛大に行われ、平成２７年（２０１５）度の祭禮で、地蔵尊建立より丁度２９６年目を迎える歴史と伝統のある地蔵尊祭です。旧関宿藩領高野村時代から新生古河市に至る約３００年間、高野住民は互いに協力し合い、地蔵尊祭を延々と守り続けて来ました。

盛大に行われた盆踊り

火達磨と化した地蔵尊

日本に一つしかない珍しいロウソク地蔵尊祭は、民俗学的にも貴重な文化財である事は勿論、見る人に心の故郷を感じさせる素晴らしい祭でもあります。最近テレビや新聞等に取上げられ、今や高野ロウソク地蔵尊祭は、日本全国に知られるようになりました。

最後に高野住民はもとより、古河市民の心の故郷としてロウソク地蔵尊祭が末永く続く事を心よりお祈りいたします。

（古河郷土史研究会　亀田輝夫）

編集後記

“人を救えるのは人しかいない”常日頃の訓練がもっとも重要です。こう結論づけたのは東日本大震災で大被害を受けた仙台市菅原福住町内会長さんでした。

〇蒲生地区　戸数591 戸　（死者151 人）
〇荒浜地区　戸数657 戸　（死者189 人）

平穏な生活が一瞬にして破壊された思いもよらぬ災害、悲惨な現地を視察し、菅原消防庁防災アドバイザーの講演で、日頃の訓練の大切さ重要さを学ぶことが出来ました。講演を無にしないよう参考にしたいと思います。

（広報委員長　伊藤利彦）

訃　報

平成26年12月4日、新原自治会（第２地区）の山田克彦会長がご逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

行政自治会広報委員会

委員長　伊藤利彦
委　員　横山泰男　生方隆雄　鈴木國雄
廣田壽男　荻谷武士　知久文雄
梅津信男　荒川篤志　黒木ヒサ子